

index

2015〈第6号〉

- 医師連盟委員長挨拶
- 自見はなこ氏の推薦を決定!
- 自見はなこ氏×小高正裕連盟執行委員(対談)
- 平成27年兵庫県医師会新年祝賀会
- 第47回衆議院議員総選挙結果
- 平成27年統一地方選挙(兵庫県)について(ご案内)
- 平成26年度第1回 日本医師連盟医政活動研究会
- 各懇談会報告
- 国民のための医療とは何かを考える
- 郡市区医師連盟だより

兵庫県医師連盟ニュース

発行所 兵庫県医師連盟

〒651-8555 神戸市中央区磯上通6-1-11

Tel 078-231-4114

http://www.hyogo-ishirenmei.jp

編集責任者 川島 龍一



医師連盟委員長挨拶



兵庫県医師連盟

委員長 川島 龍一

医療・社会保障政策の在り方を検討し、2015年度の診療報酬・介護報酬同時改定の参考に供するものとす。

更に医療関連の政策をめぐっては、塩崎厚労相直轄の「保健医療2035」策定懇談会が設置されており、20年後の保健医療に関するビジョンをまとめるための検討を開始致しております。又、政府の社会保障制度改革会議においても、持続可能な社会保障制度の確立を図るための改革に関する議論が続けられております。

相次ぐ企業献金問題で足元はややぐらいついていますが、昨年末の総選挙での自民・公明両党の圧勝を背景に、安倍内閣の暴走ともいえるトッパダウン方式で我が国の政治が動かされ、右傾国家への道を歩み始めております。

一方、今国会での所信表明演説では、聖域無き社会保障と税の一体改革を強調しており、社会保障費の適正化と医療における規制緩和を推進する旨を表明いたしております。

この意向を受け、自民党内には2月5日「財政再建に関する特命委員会」が設置され、財政再建等の論議が始まっており、社会保障費の自然増分を機械的に抑制する手法も粗上に載せられようとしております。

2月26日には自民党「社会保障制度に関する特命委員会」が開設され、

わせ作りにどれだけ貢献してきたかを教授し、新自由主義者達が推進しようとしている規制緩和による医療の営利産業化は、国民皆保険制度の崩壊と国の荒廃を招くことをご理解いただくよう、私達が努力を重ねねばなりません。

さて、現在早急な対応が迫られている喫緊の課題は、社会保障制度改革推進法に基づく「地域医療構想」策定に関するものです。

国の「策定ガイドライン」に基づき、病床機能報告制度で得られたデータと、DPCデータ、レセプトデータ等を重ね合わせて推計される2025年の必要機能別病床数に近づこう、地域医療構想区域毎に病床の再編(特に急性期病床を回復期病床に、慢性期病床を在宅医療へと誘導)が目論まれており、管理医療体制へと大きく歩み出そうとしております。管理医療・医療費抑制の目的ではなく真の住民の方々のための地域包括ケア体制を構築するためには、地方議会議員の先生方のご理解とご協力が是非とも必要です。

地域住民の方々への公平・安全・良質な医療提供体制を確保するために、国会議員、地方議会議員の先生方との交流・連携をお図り下さいますようお願い申し上げます。

参議院比例代表(全国区)選挙 (平成28年7月予定)

自見はなこ氏の推薦を決定!



11月25日、日医連は、日本医師会館で常任執行委員会・執行委員会を開催し、自見はなこ氏(38歳・東京都医師会)を平成28年7月施行予定の参議院比例代表選挙における、日本医師連盟推薦候補者とする事を全会一致で決議した。

今後、自民党に公認申請を行う予定。

プロフィール

自見はなこ (自見 英子)

(経歴)

- 1998年 筑波大学第三学群国際関係学類 卒業
- 2004年 東海大学医学部医学科 卒業
- 2004年 東海大学医学部付属病院初期研修
- 2006年 池上総合病院内科後期研修
- 2007年 東京大学医学部小児科入局・同付属病院小児科勤務
- 2008年 青梅市立総合病院小児科
- 2009年 虎の門病院小児科〜現在(非常勤)
- 2010年 国会議員秘書
- その他 江東区大島小児科医院非常勤
大田区池上総合病院非常勤

生年月日: 1976年(昭和51年)2月15日生

長崎県佐世保市生まれ

所属医師会: 東京都医師会・東京大学医師会

(免許・資格)

- 医師免許
- 日本内科学会 認定内科医
- 日本小児科学会 小児科専門医
- 国会議員政策担当秘書資格

(その他)

- 趣味: マラソン、読書、旅行
- 2011年2月、ランナーとして参加していた青梅マラソンで人命救助を行い東京消防庁から消防総監感謝状(人命救助)を受けた。

(2014年12月18日現在)

対

自見はなこ氏 × 小高正裕

連盟
執行委員

談

【兵庫県医師連盟：2015年1月11日(日)】



小高 兵庫県医師連盟ニュースに、今度特集として先生のインタビュー記事を載せますのでよろしくお願いいたします。

自見 恐縮です。ありがとうございます。

小高 まず、先生がどちらで生まれ、あるいは生い立ち、経験ですが、そのあたりをお話しいただきたいと思っています。

自見 私は、昭和51年に長崎県佐世保の母の実家で生まれております。

その後、幼少期は福岡県北九州市で過ごしておりまして、大学生になって筑波大学の国

際関係学類を卒業した後に東海大学の医学部を卒業しております。

小高 ということは、途中で変更されて医学部に行かれたということになるわけですか。

自見 はい、そうです。高校生の時、2年間ほどアメリカのボストンで過ごしておりまして、将来は英語を生かしたり、あるいは自分の、少ないですけど留学経験を生かして、国際機関で働きたいという思いが大変強かったので、国際関係学類というところにまず進学したんですけれども、卒業間際になって、やっぱり人に直接触れて人の役に立つ職業につきたいという思いが

強くなりまして、親に無理を言って、学士入学ということで医学部のほうに入学させてもらいました。

小高 医師になろうとした動機は、人のために役に立ちたいということと、ほかに何かございますか、何かきっかけとか。

自見 実は私の家は、父方も母方も医者がほとんどというような家系ですが、小さいときから叔父ですとか親の診療風景というのを見ておりましたので、私の中では、実は自然であったなと。

親に対する反抗期みたいなものもあって、一時期国際機関にという気持ちもありましたけれども、文系の大学の最後、企業や団体への就職活動などがありまして、なにかの利益のために身を粉にして働くという感覚にどうしてもなじめなくて、やっぱり人に直接触れて人の役に立つ仕事をしたいというふうに思いました。

小高 なるほど。よくわかりました。次に、お父様が有名な政治家ですから、そういう

ふうな生活の中で、何かこういうところが違っていたとか、こういう思い出があるとか、そういうところは何かあるでしょうか。

自見 幼少期の経験は実は余り明るいものではなくて、私の小学校2年生まで、父は勤務医でしたけれども、私が小学校2年生のときから父が国政に出ましたので、7歳のときに突然家庭環境が変わりました。

それまでは穏やかな勤務医の、一般的な生活をしていましたけれども、突然母が家からいなくなって、選挙活動をしたんですとか、自分を取り巻く環境というのは一変して以降は、衆議院の当時は中選挙区でしたので、数年に一度必ず選挙があるというような家庭の中で育ちましたので、非常に緊張の強い家で育ったように記憶しております。

小高 若手医師としてお仕事をされているときの思い出や、女性医師としてよかったこと、女性医師としてつらかったこと、そういうようなことは何かございますか。

自見 医師になって、初めてのころは毎日がむしろ夢中でした。今もまだそうですけれども、とにかく一人前になりたい、しっかり責任を持て患者さんをちゃんと診れるようになりたいというところで、毎日がある意味で修業なんだと。

当時は、とにかく患者さんに張りつくこと、患者さんに責任を持つことを一生懸命させていたんだ、今もまだそうさせていたいただいているというふうに思っております。

私自身は、女性として苦労したということは、私の場合は特にはないというか、医師というのは資格業ですので、その意味においては男女の差がないというところも、私にとっては大変魅力の一つと感じています。

小高 今度、いよいよ政治家として立候補しようと思いいった理由をお聞かせいただきたいと思っています。

自見 将来は内科・小児科の開業医になりたいという思いがありましたので、初期研修を終えて1年間で内科研修をし

て、内科の認定医を取った後に東大の小児科に入局しております。その後、東大の小児科で研修させていただいて、小児専門医を取っております。将来は、内科・小児科にと思いましたが、そういうわけで認定内科医と小児科専門医を取りましたけれども、専門医を取ったら、一度親に恩返しをしようということで、父と母が、政治の世界で、いつももまれているような状態でおりましたので、私としては、専門医が取れたタイミングで、いわゆる病棟を持たない生活に入らせてもらって、4年前から政治の秘書の手伝いをしております。午前は外来をして、午後には秘書業をして、夜はまた週1回から2回当直をするというサイクルを繰り返しております。

その中で、私が改めて気づいたのは、今まで勤務医の時は、それこそ一生懸命働いておりましたので、毎日病院の中だけの、ある意味で言えば真空パックされているような状態で、自分のやっていることとは尊い仕事で、それに与え



られる待遇については、ある意味で言えば当然のものというふうな考えを持っていた部分もあったと思います。

ところが、一旦政治の、病院から外に出たところで、今度は、医師会以外の各種団体からも陳情を受ける立場の側に回ってみると、今度は全く違う世界がありました。それは何かというと、それぞれの企業団体が、それぞれの企業団体の利益を丸となって背負ってきて、いろんな活動をしている。その結果としてそれぞれの業界団体が安定した

医師会の先生たちの働きのおかげで、私たちは一生懸命勤務医として働くことができていたんだということに気づかされて、そこから私の意識はすごく大きく変わってきたというふうに思っています。

小高 それでは、当選された後、政治家として、これからどのような活動をしていきたいとお思いでしょうか。

自見 まず、前提として、選挙は大変厳しいものだというふうに思っておりますし、1年半しっかり諸先輩方のご意見を聞いて、患者様やいろ

な方と対話をする中で、まず、しっかりと一つ一つ丁寧に組み立て、支援をいただける活動ができたらいなというふうにならず、志としては、懸け橋になりたいというふうに思っています。

医療界のことは大変複雑な内容が多くて、一般の方にわからない難しい内容もござい

ます。基本的には医療従事者というのは、患者様の安心安全それから社会の安定を考えて日々行動していますけれども、そのことをしっかりと患者様にわかるように伝えていききたいと思えますし、また、患者さんや、患者さん以外の各種業界団体の方の声を、逆に今度は医療界に届けられるような、そういうふうな懸け橋のような存在に自分がなれたら一番ありがたいなというふうに思っています。

もう一つ大事だなと思うのは、戦後直後の日本は、国民皆保険がなかった時代ももちろんございまして、昭和30年代になって初めて、諸先輩方の努力と決断で国民皆保険が

この国に導入されて、私たちは安定した医療を受ける体制になったというふうに思いま

私に大事にしたいなと思うのは、決して国民皆保険というものは、当たり前存在するものではないんだということ

をただただたんず。けれども、その時に電話の向こうのお母様が電話口で号泣されておられて、私は何かいけないことを言ったのかと思っ

小高 最後になりましたけれども、女性医師が非常にたくさんふえてきております。一人の女性医師として、これから

全国で働いている女性医師の方々に、何か最後にメッセージを述べていただけたらと思います。

自見 はい、ありがとうございます。

女性医師ということ、多くの先生方から大変多くの期待を寄せられていることを本当にありがたく思っております。今は、国家試験の約3割が女性医師になっておりますし、女性というのは、もはやマイノリティーではないというふうに考えております。

女性の場合は、ライフステージの中で、どうしても結婚、出産、子育て、あるいは親の介護といったことのライフイベントが幾つかありますし、その中で男性と同じようにずっと働くということは困難

社会基盤のもとに活動できる構造がしっかりと世の中にあるんだという

医療界のことは大変複雑な内容が多くて、一般の方にわからない難しい内容もござい

小児科で当直していた時に、アメリカからお電話がかかってきたことがありました。自分の十二、三歳の娘さん、ホームステイで日本にいら

小児科医として治療をする際に、目の前の患者様に行なえる治療に差があり、その根拠が親の経済格差だったら

女性医師というところで、多くの先生方から大変多くの期待を寄せられていることを本当にありがたく思

女性医師として、これから全国で働いている女性医師の方々に、何か最後にメッセージを述べていただけたら

平成 27 年兵庫県医師会新年祝賀会

平成 27 年 1 月 11 日（日）、恒例の兵庫県医師会新年祝賀会が神戸ポートピアホテルにおいて開催された。

新年祝賀会では、羽生田参議院議員を始め本県選出国會議員、県議会各派役員の出席をいただき、また、来年行われる第 24 回参議院議員選挙での日医連推薦候補自見はなこ氏の出席も得て、各郡市区医師会の参加者と懇親、また医政に関して意見交換を行う等交流を行った。



本県選出国會議員の皆様



県議会各会派役員等の皆様



自見さん挨拶回り



第47回衆議院議員総選挙結果

平成26年12月14日に第47回衆議院議員総選挙が行われた。兵庫県では、12選挙区で県医師連盟が推薦した15候補者のうち12人(選挙区：11人、比例1人)が当選した。



兵庫2区

兵庫区・長田区・北区

赤羽 かずよし

公明党

前



兵庫8区

尼崎市

中野 洋昌

公明党

前



兵庫3区

須磨区・垂水区

関 芳弘

自民党

前



兵庫9区

明石市・洲本市・南あわじ市・淡路市

西村 やすとし

自民党

前



兵庫4区

西区・西脇市・三木市・小野市・加西市・加東市・多可郡多可町

藤井 ひさゆき

自民党

前



兵庫10区

加古川市・加古郡稲美町・加古郡播磨町・高砂市

渡海 紀三朗

自民党

前



兵庫5区

朝来市・養父市・豊岡市・美方郡香美町・美方郡新温泉町・三田市
篠山市・丹波市・川辺郡猪名川町

谷 公一

自民党

前



兵庫11区

姫路市

松本 剛明

民主党

前



兵庫6区

伊丹市・川西市・宝塚市

大串 まさき

自民党

前



兵庫12区

神崎郡市川町・神崎郡福崎町・神崎郡神河町・揖保郡太子町・たつの市
相生市・赤穂市・赤穂郡上郡町・佐用郡佐用町・兵庫県・姫路市(旧家島町など)

山口 つよし

無所属

前



兵庫7区

西宮市・芦屋市

山田 賢司

自民党

前



比例区

東灘区・灘区・中央区

盛山 正仁

自民党

前

選挙区

市区町名

候補者氏名

所属政党

前・新・元 別

ご案内 平成27年 統一地方選挙（兵庫県）について

本年4月、本県では下記のとおり統一地方選挙が実施されますので、ご案内いたします。

兵庫県議会議員

告示：4月3日（金） 投票：4月12日（日）

神戸市議会議員

告示：4月3日（金） 投票：4月12日（日）

市長

投票：4月26日（日）

●芦屋市長

●明石市長

●姫路市長

市町議員

投票：4月26日（日）

●伊丹市

●宝塚市

●西宮市

●芦屋市

●明石市

●三木市

●小野市

●播磨町

●姫路市

●相生市

●太子町



前号掲載
予定記事

昨年末の第47回衆議院議員総選挙のため、前号は急遽選挙関連とさせていただきます。
以下は、前号に掲載を予定していた記事を掲載させていただきます。

平成26年度

第1回 日本医師連盟医政活動研究会

兵庫県医師連盟 常任執行委員 北垣 幸央



残暑の未だ厳しい9月13日、

土曜日、都内丸の内にて開催された「平成26年度、第1回日本医師連盟医政活動研究会」に兵庫県医師連盟から宮下委員（姫路市）と共に出席した。各県医師連盟から約120名の参加者のもと、横倉日本医師連盟委員長を始めとした日医連役員に加え、田村憲久前厚生労働大臣、小泉進次郎内閣府兼復興大臣政務官も出席され研究会が開催された。

横倉委員長の開会挨拶に続いて第1部として小泉政務官が「東日本大震災と日本の将来」のテーマで講演された。東北での被災者との交流や復興への熱い想いを含め、復興のためへの提言を話され、若手官僚を地方行政へ、首長のサポートとして送り込む「日本版シティーマネージャー」の推進を強く訴えられた。

第2部では田村前厚生大臣が

「今後の社会保障」のテーマで講演された。大臣就任中に対応されたデング熱から危険ドラッグ、医療の消費税問題まで多岐にわたって話された。混合診療問題では、「選択療養制度」が日医連の積極的な陳情、政治活動の成果によって、安全性、有効性が担保され、将来の保険収

載を織り込んだ「患者申出療養制度」になった点を強調された。最後に第3部として横倉委員長から「日本医師会の医療政策」として、地域医療の再興を目指す日医の（1）地域を支える、（2）将来の医療を考える、（3）組織を強くする、3つの方針を中心と話され、国民が過不足なく医療を受けられるためにも地域医師会、かかりつけ医が中心となった切れ目のない医療体制構築の重要性を話された。

終了後、開催された懇親会で横倉委員長からは、地元の国会議員との信頼関係を持つ事で医

政活動に繋がる、との話があり、日医連推薦の羽生田参議院議員は、地元の都道府県会議員との連携が国政選挙に当たっては非常に重要であると話された。各県医連の自己紹介もあり、近隣の医連のみならず全国の医連メンバーと意見交換、交流の場を



持つ事ができ、医政活動の重要性を改めて実感した有意義な研究会であった。



兵庫県議会自由民主党 「県民の医療を考える会」との 懇談会

連盟プロジェクト副委員長 進藤 啓

衆議院解散を翌日に控えた平成26年11月20日（木）、兵庫県医師会館において標記の懇談会が開催された。兵庫県議会から

の県議会議員が、県医師連盟からは川島委員長を筆頭に執行委員、連盟プロジェクト委員など23名の連盟委員が参加した。

懇談は、兵庫県医師連盟側から、我々の考え方、医療政策に対する説明の取り組みなどについて、②新たな財政支援制度について、次いで鈴木常任執

行委員から、新たな再生支援制度を利用して医師会が立案している③救急電話相談事業について、渡辺執行委員からは④感染症・予防接種について（麻しん、風しんを中心に）、また坂本執行委員からは⑤地域医療IT化推進事業、特に絆ネット（北播磨医療連携システム）の経緯と現状について、そして最後に橋本常任執行委員から、規制緩和によるいわゆる混合診療の問題点（患者申出療養制度など）について追加発言が行われた。それぞれ短い時間での駆け足の解説ではあったが、その後に質疑応答の時間を若干とることが出来た。県議会議員側からは多数の質問が行われたが、個々の質

弘議員（たつの市）の総勢12名



中野 洋昌 衆議院議員との 懇談会

尼崎市医師連盟
杉安 保宣

平成26年9月20日、夕刻より尼崎市の料亭京極にて尼崎市医師会理事と医政委員会を中心としたメンバーで衆議院議員中野洋昌さんを囲み、懇談会を行いました。

週末の午後で各種学会があり参加人数は10名程度でしたが、中野洋昌議員が参加予定の尼崎市医療フォーラムの打ち合わせを行うとともに中野洋昌議員より国政レベルの話聞くこと

問に関しても連盟側の各担当者による懇切丁寧な応答が行われ、盛会のうちに懇談会は終了した。



ができ、大変有意義な時間でした。

今回の尼崎市民医療フォーラム「あなたはどこで死にたいですか？」で問題としている地域包括ケアについては、地域ごとに抱える異なる事案に対しどのように対応していくかが国としての課題であるとの、意見でした。

消費税を10パーセントに上げることにより年金問題は解決すると財務省・厚生労働省は判断している反面、少子高齢化が進む今後の医療・介護費については現時点ではどの様に賄えるかは不透明であるとのことでした。また、将来は日本の優れた医療制度（医療施設も含め）ごと

輸出すれば良いのではないかと斬新なアイデアを伺うことができました。まずは日本における医療過疎などの問題解決が先なのだろうが、個人的には非常に興味深く感じました。懇談の後、会食による懇親会が和やかに行われました。食事を味わいながらも、中野洋昌議員と様々な意見交換を行いました。

鈴木克司県医連常任執行委員の「中野洋昌議員と医師会との関係は強いものになっていく、そのためには今回のような意見交換を行う機会を頻繁に持たたい」との旨の挨拶をもって懇親会を終了しました。

明けとお盆前には医療政策研究委員会の懇談会に呼んでいただいています」

色々な質問を受けているんですが、テレビで放映されるのは10秒も無いでしょ。しかも、ちょっとニッコリ笑うとそこばかり映して、コメンテーターからニヤニヤして反省の色が見えないなんて言われますのでストレスが溜まりました」

学民にも責任はあるでしょ」
松「まあ、そうだとすると、私の口からはちょっと・でも、たしかに候補者を知る努力はして欲しいですね」

松本隆弘 県議会副議長との 懇談会

明石市医師連盟
委員長
橋本寛

9月某日夜、明石市選出の現

県議会副議長の松本隆弘県議員と明石市医師連盟の橋本、深

森の3人で懇談の場を設けることができました。以下その内容です。

橋本（以下橋）「今日は、議会秘書さんの結婚式と披露宴の後で

お忙しい中このような時間を設けていただきありがとうございます

松本（以下松）「いえ、明石市医師連盟さんとは私が県議員に初出馬の時からのお付き合いです。今後もよりしくお願いします」

深森（以下深）「県議会選に出馬

されたのは何年前でしょうか」

松「12年前になります」

深「じゃあ、私はまだ開業するだいぶ前です。その頃のこと

は良く知りません。最初に明石市医師連盟のメンバーとお会い

松「議会には不文律として良い事は議長で、悪い事は副議長が

松「全額、返金しました。彼は

松「色々とところから要求が出

松「感想って言いますか。忘れられない思い出です」

深「そうですね」

松「夜、8時過ぎに私の選挙事務所に話を聞きたいと、数名の

松「そうですね（溜息）」

松「色々とところから要求が出

松「うちで連盟から候補者に推薦を出す前提に面談は欠かせません。候補者を知るためです。

松「そうですね」

松「そうですね（溜息）」

松「そうですね（溜息）」

松「色々とところから要求が出

松「当選した後も、毎年、正月

松「当選した後も、毎年、正月

松「当選した後も、毎年、正月

松「当選した後も、毎年、正月

松「当選した後も、毎年、正月



「...していることは聞いていますが、まだ詳しいことはわかりません」

橋「県医師会からも要求は出していますので、今後、具体的な話になったら議会からもプッシュしていただく」

松「はい、12月には来年度予算の具体的な中身が明らかになります。県議会では具体的な医療の話は県立病院の事がほとんどです。わからないことは色々また勉強させていただきます」

深「県議会の副議長となられて何か変わったことはありませんか」
松「そうですね、公務には公用車が使えます。ただし、県庁を7時30分発、午後も7時30分着

までの時間しか駄目なので、9時に公務で副議長として挨拶をするときに明石の自宅まで来てもらうことはできません。片道1時間近くはかかりますから」

橋「タクシーチケットは駄目なのですか」

松「チケットは出ません。議長と副議長で公用車が1台あればいいじゃないかとも言われますが、議長と副議長と全く別の所に行くことが結構多いのですよ」

深「聞いてみないとわからないことが多いですね。他には何かありませんか」
松「ありがたいのは、空港で待たずに搭乗手続きができることです」

橋「という事は、セキュリティーチェックもですか」
松「はい、別の通路からスッと入れます」

橋「もちろん公務の時ですよ。ところで県議会は自民、民主、公明は与党ですね」

松「はい、あと県政クラブなどがありますが野党は共産党だけですね」

橋「だったら、知事は仕事やしやすいですね」

松「まあ、議会のチェックが甘

投稿記事

国民のための
医療とは何かを考える

兵庫県議会議員 越田 謙治郎(民主党)



日ごろは県民の生命を守るため医療の最前線で活動をされている皆様に心から敬意と感謝の意を表します。また、毎年開催される「医療フォーラム」を通じて医療の現状を広く広報・啓発活動に取り組んで頂いていることに厚く御礼申し上げます。私も時間が許す限り「医療フォーラム」に参加をさせていただいて

おりますが、その度に、現在の医療が置かれている現状に危機感を持つとともに、医療を守ることの重要性を再認識いたします。

本日は、TPPや国家戦略特区が医療に与える影響について8月に開催された医療フォーラムにおいて問題提起がなされましたので、それを受けて私見を述べさせていただきます。

まず、私はTPPや国家戦略特区にとどまらず、医療を経済

活性化の手段と見なし、あたかも経済成長の柱のように位置づける政治状況や社会風潮に関して問題意識を持っています。もちろん、医療は裾野の広い分野であることは間違いなく、また多くの職種において雇用が生まれる分野であることは認識しています。したがって、医療が充実することによって、結果として、経済活動が活発になることそのものは否定するつもりもありません。しかし、昨今なされている規制緩和をはじめとする議論は、市場原理に基づくものが多く、医療の本来果たすべき使命が置き去りにされている印象を受けているのです。

そもそも、医療資源は有限で

が強くなります。国民健康保険も市町村から、県単位での運営の話も出ています。また県議会さんとお話をさせていただきました。と思います」

松「はい、承知いたしました」

深「今日はお忙しい中をありがとうございます。ありがとうございました」

橋「医療分野は国から県へと権限が委譲されつつあり県の権限

あり国民共有の財産です。平成21年の民主党政権以降の取り組みにより、一時期大きな問題となった「救急のたらいまわし」「医療難民」といわれるような悲劇は少なくなったとはいえ、県議

は少なくないと思います。県議会議員として地域を歩く中で依然として地域偏在や診療科の偏在など医療における課題は山積していることを肌で感じています。また、現場の努力にかかわらず、高齢化などの影響もあ

り、年々救急搬送にかかる時間は増加傾向にあることを考えれば、貴重な医療資源を浪費する余裕はないのです。

今後、人口減少と高齢化という大きな社会変動の中で、私も県議会議員の一人として、経済活性化の観点からではなく、国民の生命を守るという観点から持続可能な医療体制を構築に取り組みでまいりたいと考えています。

郡市区医師連盟だより

【六粟市医師連盟】

日本医師会の掲げる理念と政策を実現するために活動をしてこられたわけですが、現在までにどのような政策が現実のものとなってきたのか、実現をしながらのもののように医療行政に影響を与えてきたのかを一般の会員にわかりやすく示していただければと考えます。

政府の主要なメンバーと会議をされる会を開催されても、それが形式的なものに終わっているのではと懸念されます。

郡市区医師連盟が支持する政治家や日本医師連盟が支持する国会議員でひとつの会派を形成して、懇談という形ではなく、しっかりとした発言力を持つ必要があると考えます。そのためにも、郡市区医師連盟は日本医師連盟とともに、行動できる候補者を一人でも多く国会に送るべく行動すべきと考えます。

実感としては政府に対して、いろいろと主張していただいているものの、実質マイナス改定を受け入れざるを得ない事態が続いています。

(金谷 政則)